



地震、雷、火事、親父... 猛暑、台風、ミサイル、コロナ...

いつもは夕方になると聞こえてくるひぐらしの物悲しい鳴き声が、今年はまだ聞こえてきません。いつまでたっても涼しくならないため、戸惑っているのでしょうか。今年の暑さは異常ですね。

2学期の始業式では、右の3枚のパネルを使って、熱中症予防の話をしました。子どもたちが園にいる間は、園が責任をもって子どもたちの健康と安全を守ります。保健主任の野口教諭が毎朝その日の暑さ指数を時間軸で掲示し、それに従って担任は戶外遊びの時間や休息のタイミングを見計らいながら指導に当たっています。裏面に示すような熱中症対策も行っています。

大人に比べて子どもは熱中症のリスクが高いと言われています。その理由はこうです。



- 1 子どもは、もともと体温が高い上に、発汗による体温調節機能が未発達。
- 2 子どもは、大人よりも体重に対して体表面積が大きいため、外部の熱の影響を受けやすい。
- 3 子どもは、背が低いため、地面の照り返しの熱を受けやすい。(ベビーカーも同様)
- 4 子どもは、物事に夢中になるあまり体調の異変に気づきにくい。

ご家庭でも十分注意されていることと思いますが、これから運動会の練習が始まるに当たって、パネルの3番目に挙げている「朝ご飯」は特にご協力をお願いします。空腹の状態では暑さの中で力を発揮できないどころか、ともすれば命にかかわります。

さて、2学期スタートの初日は、もう一つ大きな行事がありました。避難訓練と災害備蓄菓子(ビスコ)の贈呈式です。地震を想定した避難訓練は、年間行事に予定していたものを、寄贈者の要望に応じて1日に前倒し行っただけのことでしたが、今年はその日が関東大震災からちょうど100年の節目に当たる日ということもあり、関係機関の方々やマスコミが注目してくださり、多くのお客様が来園されました。夕方のニュースや翌日の新聞でも紹介され、第二幼稚園が脚光を浴びました。



いただいたビスコ缶を囲んで、ご家族の皆さんで防災について話題にされたことでしょうか。家の中を見回しながら、地震の際、倒れやすい、あるいは動きやすい大きな家具や家電はないか、家族がバラバラでも、どこの避難所に集まったらいいかなど、話し合い確認し合う機会になったのではないかと思います。空になったビスコ缶を、防災意識の目印として活用されてはいかがでしょうか。

まなびし真剣 避難訓練 「防災の日に
「防災の日」の1日、下関市彦島塩浜町
の下関短期大学付属第二幼稚園(寺本
明生園長、71人で地震を想定した防
災訓練と備蓄菓子の寄贈式があった。
訓練は緊急地震速報が流れて開始
園内放送で園庭の砂場前に避難するよ
う促されると、園児たちは靴を履いて
教員に手を引かれながら走って避難。
緊迫した雰囲気、中には泣き出す子
もいた。

同園は月1回、地震や火災、不審者
などを想定した避難訓練を実施。この
日は同市西消防署員3人も協力し、
「地震のときは体を小さくして頭を守
つて。おしゃべりをしないで先生の言う
ことを聞いて」などとアドバイスした。
備蓄菓子は、同市内で遊技場4店を
経営するP.S.Jグループ(植本宰亨社
長)が提供。災害時に各店舗を一時避
難所として利用できるように備蓄して
いた缶入りビスケット(30枚入り)の賞
味期限が近づいてきたため、330缶
を寄贈。植本宰徹副社長が来園し、年
長組の島野楓生ちゃん(5)と前田和臣
君(5)に手渡した。

植本副社長は「家に持ち帰って家族
と訓練のことを話して、小さい頃
から防災について関心を持ってもらえ
たら」と話した。寺本園長は「たくさん
の人たちが見守ってくれていて心強い。
今日はいい機会を頂いた」と礼を述べ
た。

(9/2 山口新聞より)

8/26 22:29、下関市で震度3の地震発生。全国のTVで流れました。台風も次々と発生。新型コロナウイルスや北朝鮮からのミサイルにも注視し続ける必要があります。(園長 寺本 明生)